

国語科学習指導案

日 時 平成28年1月17日(木)公開授業Ⅱ
会 場 2年B組教室
学 級 2年B組(男子17名、女子17名、計34名)
授業者 浅 沼 英 子

1 単元名 兼好法師の考え方に迫ろう

仁和寺にある法師～「徒然草」から(「国語2」光村図書)
(補助資料)猫また(第89段)高名の木登り(第109段)

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ)古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の思いなどを想像すること。」を受けて、主として「C 読むこと エ文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。」に重点を置いて指導する。

「徒然草」は、比較的簡潔な文章で書かれており、音読するうえでも読みやすく、古典の随筆に親しむにふさわしいものである。「仁和寺にある法師」(第52段)は、前段に主人公である仁和寺の法師の失敗談が書かれ、後段では、それに対する筆者の感想が述べられている。生徒たちにもわかりやすく興味をもって読める内容である。学習にあたっては、序段の音読を通して「徒然草」の世界に触れさせ、「仁和寺にある法師」の内容を理解することで、説話的な面白さや兼好法師のものの見方や考え方の面白さに気づかせたい。そのうえで、補助教材として他の章段を読み取り、作者の感じたことや考えたことを理解させたい。さらに、似たような自分の体験を書くことで、人間観や生き方の知恵など現代でも通用する感じ方があることを実感させたい。そのために、第52段と同じ僧の失敗談である第89段と教訓的な内容の第109段の二つを取り上げた。生徒たちにとって親しみやすく理解しやすい内容と思われるが、読みの抵抗を減じるために、現代語訳を中心として学習を進めたい。

(2) 生徒観

古典の学習の必要性を感じてはいるものの、全体の三分の二の生徒が、古典の学習や歴史的仮名遣いを難しいと答えている。そのため、音読や朗読の活動を多く取り入れながら、登場人物の行動や思いを丁寧に読み取らせる必要がある。また、一学期の「枕草子」の学習で「自分流枕草子」に取り組んだが、自然美や季節感に対する筆者の感覚について十分に捉えきれない生徒もいた。この単元では、古文を読み深め、筆者のものの見方や考え方に興味をもたせたい。

本学級は、明るく元気な生徒たちが多いが、語彙が少なかったり、表現の仕方がわからなかったりして、自分の意見や考えを書いたり発表したりすることが苦手な生徒もいる。そのせいで全体が集中力を欠くことも少なくない。このような問題の改善のため、ペアやグループによる活動を活性化させることを心がけてきた。お互いの意見を伝え合い、協力して課題に取り組む様子が見られるようになってきている。

(3) 研究との関わり

研究主題「一人ひとりが成長を実感できる指導のあり方～学びの自覚を促す振り返りを通して～」に迫るために、学習形態と振り返り活動を工夫した指導をしていきたい。特に、個人、ペア、グループ、一斉読みなど音読活動を多くし、登場人物の行動や思いを丁寧に読み取らせることにつなげたい。考える場面では、話し合い活動を少人数で行うことで、お互いの考えを述べ合ったり、自分の意見を補ったりする学習活動に主体的に取り組ませ、人物像や筆者の意見を読み取り、深める学習を進めていきたい。また、授業の終末には、振り返りの時間をしっかり保障したい。見通しをもって学習ができるように振り返りの目的を伝え、振り返りの着眼点やキーワードを示すことで、生徒たちが学びの自覚と達成感をもてるようにしていきたい。

3 単元の目標

(1) 古典の文章に関心をもち、意見や感想をを交流して考えを深めようとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

(2) 作者のものの見方や考え方を読み取り、自分の知識や体験と関連付けることを通して、自分の考えをもつことができる。

【読むことエ】

(3) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、現代との共通点や相違点に気づくことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)】

4 (1) 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①作品独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ②文章の内容や筆者のものの見方に関心をもち、感想や意見を交流して考えを深めようとしている。	①現代語訳を参考に内容を理解し、登場人物の行動や心情を踏まえて、作者の思いを想像している。 ② 体験と照らし合わせた自分の意見を述べたり聞いたりして、考えを深めている。	①歴史的仮名遣いや言葉遣い、省略されている語句などに注意しながら音読している。 ②文章に表されたものの見方や考え方に触れ、自分の言葉で表現している。

(2) 単元の指導計画 (5時間)

時間	ねらいと学習活動	単元の評価規準	評価の方法
1	○単元の目標と学習計画を確認する。 ○兼好法師や作品の成り立ちを知る。 ○序段を音読し、内容を理解する。	ア①, ウ① 学習の見通しをもち、作品への興味関心をもっている。	学習の様子を観察 振り返りカード
2	○「仁和寺にある法師」の音読をする。 ○原文と現代語訳を読み、内容を理解する。	ア①, イ①, ウ① 人物の関係とエピソードを的確に捉えている。	学習の様子を観察 ワークシート 振り返りカード
3 本時	○「仁和寺にある法師」の登場人物や筆者のものの見方や考え方を捉える。	ア②, イ①, ウ② 古文から根拠を見つけて、人物像を考えようとしている。	学習の様子を観察 ワークシート 振り返りカード
4	○「猫また」(第89段)「高名の木登り」(第109段)を読み、兼好法師の伝えたかったことを考える。	ア②, イ②, ウ② 自分たちの力で文章の内容を理解し、作者の考え方を想像しようとしている。	学習の様子を観察 ワークシート 振り返りカード
5	○二つの作品のうちどちらかを選び、そこに表れている兼好法師のものの見方や考え方について、似たような自分の体験を挙げて文章にまとめ、交流する。	ア②, イ②, ウ② 文章を交流して、お互いに考えを深めようとしている。	学習の様子を観察 ワークシート 振り返りカード

5 本時について

(1) 目標 「仁和寺の法師」の行動や人物像を踏まえて、作者の考えを読み取ることができる。

(2) 本時の評価規準

①仁和寺の法師の話をもとに、兼好法師のものの見方や考え方について考えている。

【関心・意欲・態度】

②文章に根拠を求めながら、「仁和寺の法師」の勘違いの要因や人物像を読み取り、作者の考えをまとめることができる。【読むこと】

(3) 展開

階	学習項目	学習活動	指導上の留意点 ◇評価
導 入 5 分	1 前時の振り返り	○「仁和寺にある法師」の音読。	・歴史的仮名使いの確認をする。
	2 学習課題の把握	○今日の学習の見通しをもつ。	
「仁和寺にある法師」で、兼好法師が伝えたかったことは何だろう。			
展 開 35 分	3 課題の解決①	○三つの段落の内容を確認する。 ・仁和寺の法師が麓の寺を石清水八幡宮 と思い込んだ。 ・仁和寺の法師が感動を仲間に語った。 ・兼好法師の感想 ○法師が勘違いをした要因を考え、法師の 人物像について考え、発表する。 (個人→グループ→全体) ・思い立って行動した早とちりな人。 ・案内人を付けずたった一人で行った自 分を過信している人。 ・石清水八幡宮の位置関係を把握してい なかった見通しの甘い人。 ・山に登っていく人々にその理由を尋ね なかった生真面目で、独りよがりな人。	・それぞれの主語をおさえる。 ・生徒に問いかけながらすすめる。 ・本文の根拠にした部分にサイド ラインを引かせる。 ◇根拠を明確にして、失敗の要因 や人物像を話し合っている。 ・全体で発表させ、生徒の意見の 共通点や相違点を整理していく。
	4 課題の解決②	○「もし先達がいたならば」どうなってい たか、作者になって仁和寺の法師にかけ る言葉を書き、交流する。 (個人→ペアで交流→全体) ・もし先達がいれば、石清水八幡宮 が山上にあることを教えてもらえたか ら、参拝することができただろう。	・「先達」の意味をおさえる。 ・作者の立場にたって、法師に語 りかける形で書かせる。 ◇読み取った法師の失敗の要因や 人物像をふまえて表現している。
終 末 10 分	5 学習のまとめ 6 振り返り	○作者の考えについてにまとめる。 ○振り返りカードに記入する。 ・自分も似たようなところがあると思った。 ・兼好法師は残念に思っていると思った。 ・兼好法師とは違う考えもあると思う。	・意見の交流や友達の発言からわ かったことや考えたことなどを 書かせる。

「仁和寺にある法師」で、
作者が伝えたかったことは何だろう。

仁和寺の法師

- ・ 思い立って行動した。 ↓ 早とちりな人
- ・ たった一人で行った。
- ・ 案内人を付けずに行った。 ↓ 自分を過信している人
- ・ 行く場所の位置関係を把握していなかった ↓ 見通しの甘い人
- ・ 誰にも聞かなかった。
- 山に登る人に理由を尋ねなかった。 ↓ 生真面目，独りよがり

その道の先達者 あつてほしいものである

兼好法師

「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり」

もし先達がいたならば、
何かあるのかと思つたとき
に聞くことができたので、
清水八幡宮にお参りができたのに残念だ。

もし先達がいたならば、
その人と話をしながら行く
ことができたので、清水八幡宮
に行き着くことができただろう。

もし先達がいたならば、
正しい場所がわかつたので迷
うことはなかつたから、清水八幡宮
に参拝することができただろう。

もし先達がいたならば、
出発前にアドバイスをも
らうことができたからお参り
できたでしょう。他の人に教
えを求めるのも必要だよ。